

令和4年度第5回 感染症発生動向調査部会

令和4年8月24日

月番：加藤 達雄

1 前月の感染症発生動向について（2022年第27週～30週・7月）

<全数把握対象疾患>

- ・結核は13例の報告があり、60歳未満が4例、70歳以上が9例であった。結核の発生は、2021年とほぼ横ばいである。
- ・パラチフスが2例報告されている。
- ・梅毒は、早期顕症8例、無症候性1例の計9例が報告されており、本年の累計は前年比133.6%と増加している。

<定点把握対象疾患>

- ・RSウイルス感染症は、前月比247.9%と増加している。2019年よりは流行は早い、2020年より遅れて徐々に増加している。
- ・手足口病は、前月比843.8%と急速に増加している。特に中濃地区で増加がみられる。

2 検討すべき課題

- ・2022-2023年シーズンのインフルエンザ対策について

<保健環境研究所から>

- ・今冬期のインフルエンザの流行について

3 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・一般社団法人日本感染症学会 提言 2022-2023年シーズンのインフルエンザ対策について（医療機関の方々へ）2022年7月24日

4 その他（感染症対策推進課から）

- ・「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」の一部改正について
- ・サル痘に関する情報提供及び協力依頼について

<検討結果>